

和歌山県串本町から得られた北限記録のヤツトゲテンジクダイ

大西 遼¹・吉田朋弘²

Author & Article Info

¹ 串本海中公園センター (東牟婁郡串本町)
onishi@kushimoto.co.jp (corresponding author)
² 海洋生物環境研究所 (夷隅郡御宿町)
cardinalfishes@gmail.com

Received 23 January 2024
Revised 26 January 2024
Accepted 26 January 2024
Published 28 January 2024
DOI 10.34583/ichthy.40.0_62

Ryo Onishi and Tomohiro Yoshida. 2024. Northernmost record of *Neamia octospina* (Apogonidae) from Wakayama Prefecture, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 40: 62–65.

Abstract

A single juvenile specimen of *Neamia octospina* Smith and Radcliffe in Radcliffe, 1912 (Apogonidae) was collected from Wakayama Prefecture, Japan. In Japanese waters, the species has been recorded only from Kagoshima and Okinawa prefectures. The Wakayama specimen represents the northernmost record for the species.

紀伊半島の南端に位置する和歌山県串本町は温帯域に位置するが、黒潮の影響を強く受けるため、海中には造礁サンゴ類が豊富にみられ、熱帯性生物群集が形成されている(野村, 2009)。それに伴い多くの熱帯性魚類が加入および定着することが知られている(福田, 1983; 福田・小寺, 2019)。串本町沿岸における魚類相は、串本海中公園センター(福田, 1983; 福田・御前, 1992a, b; 福田・小寺, 2019)や池田・中坊(2015)により多くの種が報告されている。近年においても、同町初記録となる熱帯性魚類の報告が相次いでおり(例えば、松沼, 2020a, b; 富森・松沼, 2020; 松尾・國島, 2021; 堺・國島, 2023など)、気候変動に伴う魚類相の変化を把握する上で重要な海域である。

テンジクダイ科魚類は日本国内から26属107種が知られ(本村, 2023)、そのうち和歌山県からは14属46種が記録されている(林・新井, 1980; 御前, 1990a, b, 1999, 2003; 山本・古見, 2005; 林, 2013; 池田・中坊, 2015; 松沼, 2020a; 吉田ほか, 2020)。ヤツトゲテンジクダイ属 *Neamia* Smith and Radcliffe in Radcliffe, 1912 は、日本国

内からカクシヤツトゲテンジクダイ *Neamia articycla* Fraser and Allen, 2006、シキナミヤツトゲテンジクダイ *Neamia notula* Fraser and Allen, 2001、およびヤツトゲテンジクダイ *Neamia octospina* Smith and Radcliffe in Radcliffe, 1912 の3種が記録されており(林, 2013; 吉田・本村, 2015)、本県からはシキナミヤツトゲテンジクダイのみが報告されている(吉田ほか, 2020)。

2023年6月5日に和歌山県串本町浪ノ浦の漁港においてヤツトゲテンジクダイの稚魚が1個体採集された。これまで本種の日本国内における分布は、鹿児島県口永良部島以南であり(吉田ほか, 2018)、今回得られた標本は、本種の本州からの初記録であるとともに、分布の北限を更新する記録であるためここに報告する。

材料と方法

標本の計測はFraser (2005)と吉田ほか(2018)にしたがった。ただし、鱗(脱落が認められるため)と鰓耙数の計数(小型個体で解剖が必要なため)は本研究では行っていない。体各部の計測は実体顕微鏡下で行い、接眼マイクロメーターを用いて0.1 mmの精度で測定した。標準体長(standard length)は体長またはSLと表記した。脊椎骨の観察には軟X線写真を用いた。生鮮時および生時の体色の記載は、固定前に撮影されたカラー写真(Fig. 1A–C)に基づいて記載した。本報告に用いた標本(WMNH-PIS13832)は、和歌山県立自然博物館(WMNH)に保管されている。

Neamia octospina Smith and Radcliffe, 1912

ヤツトゲテンジクダイ

(Fig. 1)

標本 WMNH-PIS13832, 13.8 mm SL, 和歌山県東牟婁郡串本町潮岬浪ノ浦(33°26'48"N, 135°46'19"E), 水深0.2 m, タモ網, 2023年6月5日, 大西 遼。

記載 背鰭条数 VIII-I, 9; 臀鰭条数 II, 8; 胸鰭条数 17; 腹鰭条数 I, 5; 脊椎骨数 10 + 14。体長に対する体各部の割合(%) : 体高 39.1; 頭長 42.8; 眼径 10.1; 吻長 8.7; 両眼

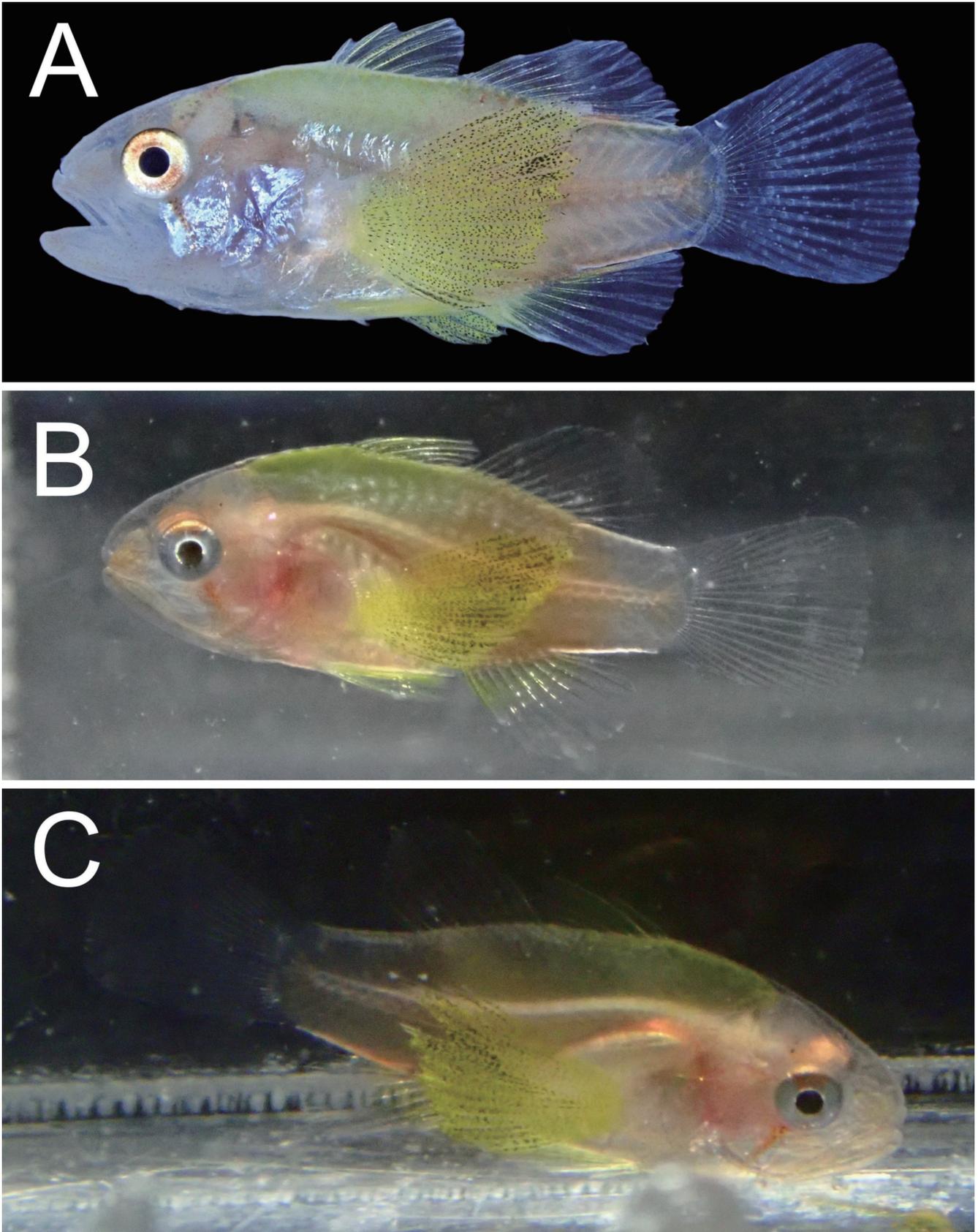


Fig. 1. Fresh specimen (A) and live individuals (B, C) of *Neamia octospina* (WMNH-PIS13832, 13.8 mm SL) from Kushimoto, Wakayama Prefecture, Japan.

間隔 10.1；上顎長 23.9；尾柄長 16.7；尾柄高 19.5；第 1 背
鰭第 1 棘長 3.6；第 1 背鰭第 2 棘長 9.4；第 1 背鰭第 3 棘長
16.7；第 1 背鰭第 4 棘長 15.2；第 2 背鰭第 1 棘長 8.7；臀
鰭第 1 棘長 3.6；臀鰭第 2 棘長 9.7；胸鰭長 39.1；腹鰭長
23.2。

体は楕円形で、尾柄高が高く側扁する。頭部と眼が大
きい。口は大きく斜位で、吻は丸みを帯びる。主上顎骨の
後端は瞳孔の後縁をこえる。頭部の棘要素は発達してい
ない。肛門は体のほぼ中央に位置する。両顎には円錐歯が並
び、鋤骨歯は V 字状で、口蓋骨に歯はない。第 1 背鰭起

部は腹鰭挿入部の直上に位置し、第1背鰭基底後端は腹鰭挿入部と臀鰭起部の中間の直上に位置する。第2背鰭起部は臀鰭起部のやや前方の直上に位置し、第2背鰭基底後端は臀鰭基底後端の直上に位置する。臀鰭起部は第2背鰭第1軟条基部の直下に位置し、臀鰭基底後端は第2背鰭基底後端の直下に位置する。胸鰭は大きく、胸鰭基部上端は第1背鰭第2棘基部の直下に位置し、胸鰭の先端は第2背鰭基底後端を超える。腹鰭挿入部は第1背鰭基底後端と第2背鰭起部の中間の直下に位置し、その先端はわずかに臀鰭起部をこえる。尾鰭は大きく丸みを帯びる。

色彩 生鮮時および生時の色彩 (Fig. 1A–C) — 体全体は半透明の薄い橙色で、頭頂部から第2背鰭基部にかけて黄緑色を呈する。眼から放射状に伸びる4本の橙色線があるが、眼下に伸びる1本を除きかなり薄く、特に吻端に伸びる1本はわずかに橙色の色素胞が出現する程度である。虹彩は銀色がかかった橙色である。頬部と腹部は光沢のある銀白色を呈する。各鰭は胸鰭を除き透明で、第1背鰭、臀鰭、および腹鰭は所々黄緑色を呈する。胸鰭は黄緑色で、胸鰭鰭条には基部から外縁にかけて黒色素胞が密に分布する。

固定後の色彩 — 体全体は乳白色で、生鮮時および生時に見られた橙色と黄緑色が消える。眼から頭頂部にかけてと眼から上顎後端にかけて黒色素胞が分布する。胸鰭鰭条の黒色素胞は残存する。

分布 本種はインドから西太平洋にかけて広く分布し (Fraser and Allen, 2001), 国内では、口永良部島 (吉田ほか, 2018), 屋久島 (Yoshida et al., 2010; Motomura and Harazaki, 2017), 沖縄島 (吉郷ほか, 2005), 慶良間諸島 (林, 1996), および石垣島 (Ida and Moyer, 1974; 林, 1996) から記録されており、本研究により新たに和歌山県串本町から記録された。

備考 和歌山県産の標本は、第1背鰭が8棘で、第8棘が皮下に埋没しないこと、胸鰭軟条数が17と多いこと、生鮮時および生時に眼から4本の橙色線が伸びることなどの特徴が Fraser and Allen (2001) や吉田ほか (2018) の示したヤツトゲテンジクダイ *Neamia octospina* の特徴によく一致したため、本種と同定された。ただし、本標本では、Fraser and Allen (2001) や吉田ほか (2018) の報告した計測値と比較して、眼径が10.1% (後者では7.0–10.0%), 両眼間隔が10.1% (5.3–7.0%) であること、胸鰭長が39.1% (26.6–35.0%) であること、腹鰭長が23.2% (24.9–29.0%) であることが一致しなかった。しかし、本標本は体長13.8 mmの稚魚であり、体長15.0 mm未満の計測値は Fraser and Allen (2001) が報告した4標本 (10.0 mm SL, 1個体; 12.0 mm SL, 2個体; 14.0 mm SL, 1個体) のみで、成長に伴い体形が変化する可能性があるため、小型個体の情報の蓄積が必要であると考えられる。

本標本は稚魚期であり、胸鰭が著しく大きく、黒色素胞が密に分布していた。また、生時および生鮮時に、頭頂部から第2背鰭基部にかけてと胸鰭や腹鰭などが黄緑色を呈していた。これらの特徴は Ida and Moyer (1974) や吉田ほか (2018) が報告した本種の成魚と思われる個体 (前者38.0 mm SL; 後者38.1 mm SL) では確認されていないことから、成長に伴い変化あるいは消失すると考えられる。

和歌山県串本町から得られたヤツトゲテンジクダイの標本は、日本国内における分布の北限を更新する記録であるとともに、本州からの標本に基づく初めての記録となる。なお、和歌山県産の標本は体長13.8 mmの稚魚であった。本種が和歌山県ですでに定着し再生産しているかは現状断定できないが、紀伊半島の先端に位置する串本町は黒潮の影響を強く受けるため、本来南方に分布する熱帯性魚類の卵や稚魚、および幼魚が偶発的に輸送されることが知られている (富森・松沼, 2020; 松尾・國島, 2021)。そのため、本種のこれまでの分布を考慮すると、本標本は黒潮により南方域から偶発的に輸送されたものであると考えられる。

謝 辞

和歌山県立自然博物館の平嶋健太郎氏には標本の登録を行っていただいた。摂南大学農学部応用生物科学科の國島大河氏には軟X線写真の撮影をしていただいた。Ichthy編集委員の宮本圭氏には原稿に対して適切な助言をいただいた。以上の方々に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

引用文献

- Fraser, T. H. 2005. A review of the species in the *Apogon fasciatus* group with a description of a new species of cardinalfish from the Indo-West Pacific (Perciformes: Apogonidae). *Zootaxa*, 924: 1–30. [URL](#)
- Fraser, T. H. and G. R. Allen. 2001. A new species of cardinalfish in *Neamia* (Apogonidae, Perciformes) from Mauritius, Indian Ocean, with a review of *Neamia octospina*. *Records of the Western Australian Museum*, 20: 159–165. [URL](#)
- 福田照雄. 1983. 串本海中公園海中展望塔から観察された魚類. *南紀生物*, 25: 87–94.
- 福田照雄・小寺昌彦. 2019. 海中展望塔に集まる魚 40年間のまとめ. *串本海中公園マリンパビリオン*, 8: 1–14. [URL](#)
- 福田照雄・御前洋. 1992a. 串本海中公園センターで記録された魚類一覧 (1). *串本海中公園マリンパビリオン*, 21: 26–29.
- 福田照雄・御前洋. 1992b. 串本海中公園センターで記録された魚類一覧 (2). *串本海中公園マリンパビリオン*, 21: 32–33.
- 林公義. 1996. 日本産テンジクダイ科魚類の動物地理学的研究 — 奄美諸島における特性 —. *横浜国立大学環境科学研究センター紀要*, 22: 113–122. [URL](#)
- 林公義. 2013. テンジクダイ科, pp. 826–864, 1979–1986. 中坊徹次 (編) *日本産魚類検索 全種の同定*. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林公義・新井良一. 1980. 日本産テンジクダイ科魚類相の検討 — 紀伊半島における特性 —. *国立科学博物館専報*, 13: 83–95.
- Ida, H. and J. T. Moyer. 1974. Apogonid fishes of Miyake-jima and Ishigaki-jima, Japan, with description of a new species. *Japanese Journal of Ichthyology*, 21: 113–128. [URL](#)

- 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. xxii + 597 pp.
- 松沼瑞樹. 2020a. 和歌山県串本町からのソウリュウスカシテンジクダイとマダラテンジクダイの記録. *Nature of Kagoshima*, 47: 41–45. [URL](#)
- 松沼瑞樹. 2020b. 和歌山県からのカザリカクレウオ (カクレウオ科) の確かな記録と本州初記録となるユリサヨリ (サヨリ科) とヒメダツ (ダツ科) の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 2: 4–9. [URL](#)
- 松尾 怜・國島大河. 2021. 和歌山県串本町から採集された北限記録のミナミフエダイ *Lutjanus ehrenbergii*. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 6: 38–40. [URL](#)
- 御前 洋. 1990a. 本州初記録の魚, シボリの紹介. *南紀生物*, 32: 49.
- 御前 洋. 1990b. シボリダマシ (テンジクダイ科) の取捨例. *南紀生物*, 32: 55.
- 御前 洋. 1999. 定置網で捕獲された魚種について (5) 1998 年の結果. *串本海中公園マリンパビリオン*, 28: 2–3.
- 御前 洋. 2003. いそこじき (22) 串本初記録の魚 6 種の紹介. *串本海中公園マリンパビリオン*, 32: 10–11.
- 本村浩之. 2023. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 23. [URL](#)
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. *Bulletin of Kagoshima University Museum*, 9: 1–183. [URL](#)
- 野村恵一. 2009. 和歌山県串本海域における近年のサンゴ群集変化. *日本サンゴ礁学会誌*, 11: 39–49. [URL](#)
- 堺 響暉・國島大河. 2023. 和歌山県串本町から得られた本州初記録のクラカケエビス. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 35: 16–19. [URL](#)
- 富森祐樹・松沼瑞樹. 2020. 和歌山県串本町から得られた本州沿岸 2 例目のツバメコノシロ科ナンヨウアゴナシの記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 1: 22–24. [URL](#)
- 山本典暎・古見きゅう. 2005. 本州最南端 南紀串本 海の生き物ウォッチングガイド. 株式会社ピーシーズ, 東京. 264 pp.
- 吉田朋弘・萩原清司・本村浩之. 2020. 和歌山県から得られたテンジクダイ科魚類の稀種シキナミヤツトゲテンジクダイ *Neamia notula* の北限記録. *魚類学雑誌*, 67: 107–111. [URL](#)
- Yoshida, T., Harazaki, S. and Motomura, H. 2010. Apogonid fishes (Teleostei: Perciformes) of Yaku-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan, pp. 27–64. In Motomura, H. and K. Matsuura (eds.) *Fishes of Yaku-shima Island – A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan*. National Museum of Nature and Science, Tokyo. [URL](#)
- 吉田朋弘・木村祐貴・本村浩之. 2018. 鹿児島県口永良部島から得られたテンジクダイ科魚類ヤツトゲテンジクダイ. *日本生物地理学会会報*, 72: 236–241.
- 吉田朋弘・本村浩之. 2015. 南日本から得られた北西太平洋初記録のテンジクダイ科魚類シキナミヤツトゲテンジクダイ (新称) *Neamia notula*. *魚類学雑誌*, 62: 183–188. [URL](#)
- 吉郷英範・市川真幸・中村慎吾. 2005. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (IV). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, 5: 1–51.